

令和2年9月10日

コロナ禍の中で

天道自治区長 小栗 一夫

雲龍寺の山門の右手にちょっとした建物があります。覗いてみると、仏様らしきものが3体座しています。文書によるとここは観音堂で、真ん中の仏様は十一面観音（如意輪観音？）のようです。大正12年頃に建立されたようです。私の記憶のあるところでは、床貫さんのおばあさんや近所の年配の方がよくおまいりやお世話をしてみえました。今は雨漏りするそうで、何とかしなくてはと思うこの頃です。十一面観音は、修羅道に迷う人々を救ってくれ、様々な災難や病気の治癒などの現生ご利益があるそうです。

また、亀首町の国道419号沿いに花屋さんがありますが、そのすぐ南から西に入る草道があります。そこにも雲龍寺横の観音堂によく似ているお堂があります。中には薬師如来が祀られています。これはいつごろからあったのでしょうか。もし、両方とも同じぐらいに建てられたのなら、当時は疫病が流行って多くの方が苦しみ、お堂を建てた？とも考えられます。

ところで、薬師如来といえば、奈良の薬師寺が頭に浮かぶのではないでしょう。薬師寺は西暦 680 年に天武天皇が奥さん（後の持統天皇）の病気を平癒を祈って建てられたそうです。金堂には薬師三尊像が祀られています。

薬師如来は、正式には「薬師瑠璃光如来」ともいわれ、「浄瑠璃世界」の仏様だそうです。病気を治してくれる仏様で、薬壺を持っています。

最近では、科学的に病を治す医学が発達してきました。「お参りしたところで、治るはずがない」などと思っている方には、御利益がなさそうですが、「信ずるものは救われる」で、ご利益があると思っている方には良いのかもしれませんが。信じることで、自己防衛作用とか免疫力がアップする？のではないのでしょうか。

このコロナ禍で、仏様に手を合わせる事が、心の支えになるのはよいかもしれません。そうだ、コロナが収束してあちこち行けるようになったら、神様・仏様に感謝する寺社巡りをしてみよう。それまで、心の中で健康でいられることに感謝したいものです。